

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100990		
法人名	社会福祉法人 ふるさと会		
事業所名	グループホーム 浦戸の里		
所在地	高知市横浜20-1		
自己評価作成日	平成28年5月20日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた施設です。南側が浦戸湾に面しており、北側には中庭があり少し歩けば山にもすぐ足を運べます。
施設内では個々に合った役割を持って頂き、生活の中に楽しみを取り入れながら充実した生活を送る事で認知症予防、自立支援に取り組んでいます。

定期的な法人主催避難訓練に加え自事業所主催での避難訓練も独自に行っている。また、マニュアル作成にも取り組んでおり誰でも迷う事無く避難誘導ができる体制を進めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JiryosyoCd=3970100990-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年6月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、窓から浦戸湾が一望でき、中庭には季節の花を植え、周囲の自然にも囲まれた場所にある。同一敷地内には、母体法人が経営する特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービス、居宅介護支援事業所などがあり、行事や防災訓練などで協働しやすい環境である。
事業所が津波警戒地域にあるため、特に災害訓練には力を入れている。同一敷地内の高台に法人の6階建て、12階建ての施設があり、災害避難指定ビルとなっている。近隣の福祉事業所からも避難場所として避難訓練の利用がある。また、母体が医療法人なので医療面の連携が取りやすく利用者、家族に安心感を与えている。
管理者及び職員は利用者一人ひとりを大切にし、その人らしく、自信を持って生きることなどを掲げた理念の実践に力を入れている。今までの生活スタイルをできるだけ継続した支援を心がけ、利用者は安心した生活を送っている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまもの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本に事業所としての理念を実施、実現する為に、ユニット会、部署会で話し合いをし、全職員が同じ考え方を共有できるよう努めている。	「高齢者が自分の命を輝かせながら、生きることが出来るように自立支援する。」という理念を掲げ、月1回のユニット会や部署会で、日々のケアが理念を実践できているか振り返り、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催イベントへの参加、地域の祭りへの参加やスーパーへの買い物等で日常的に地域交流の機会を持てるよう実践している。	同一敷地内のケアハウスの入居者と交流したり、地区の一斉清掃には職員と一緒に利用者が数人参加している。昨年からは始まった地元の祭りにも参加している。また、ボランティアの訪問も多く、日常的に地域との交流を行うよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族交流会を実施し、認知症予防講習を行ったり職員を交えての交流会にて、普段からの疑問を話す機会をつくる等に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事や事故、取り組みを報告し、可能な限りご家族様や地域の方々の意見を反映していく事ができるよう取り組んでいる。	運営推進会議では行事報告のほか、ヒヤリ・ハットや事故原因と対策を報告する事で家族から信頼を得ている。また、議事録は欠席した家族に送付し周知している。しかし、会議で出された出席者の意見・要望の記録が少ない。	外部評価で気づいた課題を会議で報告し、改善に向けた取り組み経過を記録するとともに、会議で検討したいテーマを議題にあげる等、意見交換がより活発になる工夫をし、意見内容を記録していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加し、市の担当者の方に話を聞いたり、他事業所の取り組みを聞いたり、自事業所の取り組みの相談をしたりと出来るだけ機会を多くとれるよう取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議を通して事業所の情報を提供し、介護保険の解釈を尋ねるなど種々の相談をしやすい関係を築いて互いに協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の身体拘束防止委員会に職員を委員として参加させ、法人全体の身体拘束防止を進めると共に、その内容を部署にフィードバックしていけるよう部署会等で取り組んでいる。	月1回開催する法人の身体拘束防止委員会に職員が出席し、内容を全職員に周知している。職員は身体拘束の意味を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は、利用者の外出傾向を把握し、その人に適した声掛けや見守り、付き添い等を行っている。また、身体拘束によるリスクに関して家族と話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催の虐待防止委員会に職員を委員として参加させ、法人全体の虐待防止を進めると共に、その内容を部署にフィードバックしていけるよう部署会等で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者があり制度の認知は職員にあるが、内容の理解は不十分。今後は法人主催の弁護士の講演に参加していき、活用する為の準備を整えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に必要な書類を2部ずつ用意し、ご家族様にも見て頂きながら、口頭で読みながら説明を行っている。質問に対してはその都度確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での会話の中から、入居者様の率直な意見を汲み取る事、ご家族様面会時等にも話を聞く事などで施設に対する意見・要望を反映できるよう取り組んでいる。また、それらを運営推進会議の場で報告し運営に生かせるようにしている。	家族交流会を年1回開催し、家族同士で話し合う場も設定している。家族会の内容を記録し、家族アンケートの実施や意見・要望を聞いて、ケアに反映できるようにしている。家族の面会も多く、意見・要望が言いやすいように対応を工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会・全体部署会で運営に関する事や改善事項などについて話し合う機会を設けている。また、人事考課シートにも法人や事業所に対する意見や要望を記載する項目を設け、個々の意見を聞く仕組みがある。	各ユニット会や全体部署会などで、職員の意見や要望を話し合うようにしている。研修会に参加出来るよう職員間で勤務体制を調整することを支援し、ストレスチェックなどメンタルケアも大切にして働きやすい職場環境をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課シートと共にそれぞれ面接も行い、職員の勤務状況を評価し昇給や賞与に反映し、意欲を持って働きやすい環境づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の勉強会参加や、個々の能力に合わせて研修にも参加してもらっている。研修参加者には業務で生かせるよう部署会で発表してもらったり、気付いた点を業務に生かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南部圏域グループホーム連絡会に参加し、意見交換を行うと共にネットワーク作りをする事で相互のサービス向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前・入居直後に生活歴を聞き、出来る限り今までの生活環境に近づける工夫をしたり、不安な気持ちを和らげるよう明るく話しかけるなどし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様の現在困っている事や要望を聞き、ご家族様と職員が共通の思いを持てるよう関係づくりに努め、入居後も電話時や面会時等にご家族様に安心して頂けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後のご本人様の状況、ご家族様の要望などを聞き、今一番必要な支援は何かを常に考えながら、より良いサービスが実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて役割を持って頂き、職員と共に日常生活を送っていると実感できるように心がけている。言葉遣いにも配慮し共に過ごし支えあっていると実感して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居説明の際にご家族様に受診、行事への参加、外泊、外出などをお願いし、職員と共に支援して頂けるようお願いしている。遠方のご家族様も定期的に来設して頂けるようお願いし、関係継続できるよう心掛けている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前によく利用していたスーパー・量販店などに買い物に出掛けたり、友人との交流など今までの関係が継続できるよう支援している。</p>	<p>ケアハウスにいる以前からの友人と共通の趣味で交流を続けたり、家族の協力で馴染みの店に買い物に行くなど、今までの関係が継続できるように支援している。また、入居後、事業所内で気の合う友達ができ、新しい馴染みの関係ができた利用者にも関係継続を支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の生活を大切にしつつ周囲の方との関わりが持てるよう時には職員が間に入り、時には遠目で見守り、それぞれが支えあえる関係作りができるよう支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も転居先や入院先に面会に行ったり、ご家族様が近況報告に訪れて下さったりしている。時には気さくに相談事に応じる事などで良好な関係が保たれている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常的に会話や表情の中からご本人様の意向を汲み取るよう心がけ、個々に応じた支援を行えるよう努めている。</p>	<p>入居時に作成したフェイスシートの「私の暮らし方シート」に、入居後把握できた情報を随時記録し、年1回はシートを整理して新たな情報を職員間で共有しながら、思いや意向に沿える支援を行うようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時にご本人様、ご家族様から生活歴を聞き取ると共に、入居後もご本人様の言動から情報の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気付き、体調の変化等を日誌・申し送りノートに記載し、ユニット会で個々の現状分析をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員だけでなく他職種の意見も参考にし、現状のモニタリングを行っている。固定観念に囚われず、柔軟な発想ができるよう素朴な意見を参考にするなど、より良い介護計画になるよう努めている。	面会時や電話などで家族・本人の意向を聞き、担当職員や他の職員の意見などをもとに介護計画を作成している。介護計画は一人ひとりの暮らし方が分かる、個別性のある具体的な内容になっており、利用者の状態変化時にその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の進捗状況や、新たな気づきを個人台帳に記載していく事で、職員間で情報共有し、より良い介護計画になるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズ・要望に対し、同法人内施設を利用したり通院支援、買い物代行など柔軟に対応できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近所の魚屋に買い物に行ったりと地域資源を活用しながら生活する中で、その人らしく生活していけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診や往診支援を行い、医療面での相談、助言をもらい適切な医療が受けられるよう支援すると共に、ご家族様と情報共有し納得をしていただけるよう努めている。	本人・家族が希望する医療機関へ受診している。通院も家族の希望に応じて職員が同行している。受診結果は利用者別に保管し、職員間での情報共有は出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に個々の疾患等について看護師の指導を受けると共に、症状の変化や気付きがあればその都度看護師に報告し、早期発見と早めの受診ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し、入居者様の特徴や心身の状態を医療機関に報告すると共に、定期的に見舞いに行き病状の確認や退院後の注意点などの情報を事前に得られるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明時に看取りの指針を説明し、同意書を頂くようにしている。また、重度化した際は医療面での支援、他の医療サービスが適切と思われる際は、それらを探す手伝いをするなど支援している。	入居時に看取りの指針を家族に説明し、同意書も得ている。利用者が重度化した場合は事業所のできる事、できない事を説明し、本人、家族の意向に沿って医療などの関係者と話し合いながら、支援していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人主催の勉強会に職員は参加する事で知識を得ている。また、マニュアルを整備し定期的に見直すなどし、対応力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に法人訓練、自事業所訓練を実施しており、全職員が身につけるよう努めている。地域との協力体制については法人訓練の中で役割を持つようにしている。	事業所が津波警戒地域にあるため、災害訓練は消防署や高台にある法人の災害避難指定ビルの施設と合同で行っている。避難場所となっている建物の6階に非常用食料や備品を備蓄し、利用者と共に避難場所への移動訓練を重ねており、利用者も避難先として理解している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部署会で個別対応を考える際、声掛け方法等も統一できるよう努めている。人格尊重、誇りを守ることも合わせて話し合っている。	理念に利用者の自尊心の大切さを掲げ、職員は利用者の人格を尊重し、プライバシーの確保を大切に支援を行っている。不適切な対応が見られた場合は、リーダーや管理者が部署会などで事例にあげて、話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、入居者様が自己決定できるよう声掛け支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、朝の会をしその中で新聞を一緒に読んだり、季節の話題を出したりしながら入居者様の意向を聞き、それらを優先して支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣時等にご本人の意向を聞いたり、外出の際の洋服選びなどご本人の納得いくまで付き添い、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理本を一緒に見たり季節の食材を取り入れたり、準備の際には入居者様からお手伝いの声が聞けるなど自然と一緒に準備や片づけができる環境ができています。	週3回利用者と一緒に食材を買いに行き、旬の物や利用者の好みを献立に取り入れるようにしている。利用者はその日のメニューをボードに書いたり、調理の下ごしらえ、食器洗いなどを行い、職員は利用者の出来る事を大切に、一緒に食事を楽しむ環境をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	料理本を参考に栄養価が偏らないように工夫している。その上で食事摂取量・水分摂取量を記録し体重の増減と照らし合わせ個々に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時はご自身で出来る事は行って頂き、状況に応じて援助している。夜間の義歯洗浄、消毒についても付き添いながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録する事である程度把握し、状況に応じてトイレの声掛け、誘導を行うことにより失禁回数を減らす事に努めている。	チェック表で利用者個々の排泄パターンを把握し、その人に合った時間誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立支援を行っている。介助は利用者一人ひとりのその日の状態を把握し、安全面に配慮した柔軟な対応ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による弊害は、勉強会のみならず日常的に職員同士注意喚起しあっている。便秘に対しては食材への気配り、水分摂取に努め出来るだけ自然排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回入浴できるよう調整しているが、その都度入居者様の気分や体調を考慮し柔軟に対応している。	夏季は毎日入浴を希望する利用者もいて、希望に応じた支援をしている。入浴を拒否する利用者には、入浴時間をずらしたり、声掛けを工夫して週2～3回は入浴につなげることができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた就寝の声掛けを行っている。なかなか寝付けない方は、無理強いせず眠気がくるまで対応したりと行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に常に最新の処方情報を挟み、いつでも確認できるようにしている。服薬変更があれば看護師から助言があり、職員申し送りノートや個人台帳に記載し周知徹底に努めている。経過観察が必要な場合は、細かな事でも個人台帳に記載し、症状の変化に早期対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中に役割を持って頂き、張り合いや喜びを感じて頂けるよう支援している。買い物と一緒にいき、好きな物を購入したり、誕生日会を始め各種イベントを開催したり、ボランティアの歌や演奏を楽しんでもらうなど喜びのある生活となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の意向を聞き、可能な限り散歩や短時間のドライブなどに出掛けている。また、ご家族様の協力を得ながら、花見やみかん狩り等にも出かけている。ご家族様の協力を得られれば外食や外泊も行っている。	利用者は、アジサイ等季節の花が咲いている庭や近くの堤防を散歩している。また、海に面したテラスで、外気浴をする利用者もある。そのほか、季節の花見やドライブなどにも出かけ、外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の意向に沿ってではあるが、金銭管理をご自身でされている方も居られ、職員との買い物でご自身の物を支払されたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けてもらったり、遠方の親族、知人との手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは台所や食堂の他にリビングがあり、季節に応じた絵画や花を飾り季節感を大切にしている。配光などにも気を配り、居心地の良い空間となるよう心掛けている。	共用空間は日当たりがよく、動線に配慮して家具を配置し、利用者が過ごしやすい場所になっている。折り紙や利用者が書いた習字、オールドパワー展に出品したパッチワークや、写真を得意とする利用者の作品など利用者の思いを大切に飾り付けを行い、親しみのある空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは台所と食堂、リビングと別れており、それぞれ自由に移動したり座ったりできるようになっている。気の合う利用者同士でテーブルを囲んだりする姿がよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべくご本人の使い慣れた家具を持ち込んで頂けるようお願いし、居心地の良い空間となるよう努めている。また、日々の生活状況を観察し、必要であれば家具の配置を考え直すなど安全面にも配慮できるよう心掛けている。	居室には入居前の生活が継続できるような配慮を家族に依頼し、趣味の写真を多く飾ったり、使い慣れた筆筒を置いている利用者など、それぞれの利用者が居心地良く暮らせるように居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間の中の危険個所に配慮しながら、可能な限り自立した生活を送って頂けるよう支援し、安全に生活して頂けるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名:しらさぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本に事業所としての理念を実施、実現する為に、ユニット会、部署会で話し合いをし、全職員が同じ考え方を共有できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催イベントへの参加、地域の祭りへの参加やスーパーへの買い物等で日常的に地域交流の機会を持てるよう実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族交流会を実施し、認知症予防講習を行ったり職員を交えての交流会にて、普段からの疑問を話す機会をつくる等に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事や事故、取り組みを報告し、可能な限りご家族様や地域の方々の意見を反映していく事ができるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加し、市の担当者の方に話を聞いたり、他事業所の取り組みを聞いたり、自事業所の取り組みの相談をしたりと出来るだけ機会を多くとれるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の身体拘束防止委員会に職員を委員として参加させ、法人全体の身体拘束防止を進めると共に、その内容を部署にフィードバックしていけるよう部署会等で取り組んでいる。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人主催の虐待防止委員会に職員を委員として参加させ、法人全体の虐待防止を進めると共に、その内容を部署にフィードバックしていけるよう部署会等で取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を利用している入居者があり制度の認知は職員にあるが、内容の理解は不十分。今後は法人主催の弁護士の講演に参加していき、活用する為の準備を整えていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約に必要な書類を2部ずつ用意し、ご家族様にも見て頂きながら、口頭で読みながら説明を行っている。質問に対してはその都度確認しながら行っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中での会話の中から、入居者様の率直な意見を汲み取る事、ご家族様面会時等にも話を聞く事などで施設に対する意見・要望を反映できるよう取り組んでいる。また、それらを運営推進会議の場で報告し運営に生かせるようにしている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各ユニット会・全体部署会で運営に関する事や改善事項などについて話し合う機会を設けている。また、人事考課シートにも法人や事業所に対する意見や要望を記載する項目を設け、個々の意見を聞く仕組みがある。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の人事考課シートと共にそれぞれ面接も行い、職員の勤務状況を評価し昇給や賞与に反映し、意欲を持って働きやすい環境づくりを行っている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人主催の勉強会参加や、個々の能力に合わせて研修にも参加してもらっている。研修参加者には業務で生かせるよう部署会で発表してもらったり、気付いた点を業務に生かせるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>南部圏域グループホーム連絡会に参加し、意見交換を行うと共にネットワーク作りをする事で相互のサービス向上に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前・入居直後に生活歴を聞き、出来る限り今までの生活環境に近づける工夫をしたり、不安な気持ちを和らげるよう明るく話しかけるなどし関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前にご家族様の現在困っている事や要望を聞き、ご家族様と職員が共通の思いを持てるよう関係づくりに努め、入居後も電話時や面会時等にご家族様に安心して頂けるよう心掛けている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居後のご本人様の状況、ご家族様の要望などを聞き、今一番必要な支援は何かを常に考えながら、より良いサービスが実施できるよう努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>個々の能力に応じて役割を持って頂き、職員と共に日常生活を送っていると実感できるように心がけている。言葉遣いにも配慮し共に過ごし支えあっていると実感して頂けるよう努めている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居説明の際にご家族様に受診、行事への参加、外泊、外出などをお願いし、職員と共に支援して頂けるようお願いしている。遠方のご家族様も定期的に来設して頂けるようお願いし、関係継続できるよう心掛けている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前によく利用していたスーパー・量販店などに買い物に出掛けたり、友人との交流など今までの関係が継続できるよう支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の生活を大切にしつつ周囲の方との関わりが持てるよう時には職員が間に入り、時には遠目で見守り、それぞれが支えあえる関係作りができるよう支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も転居先や入院先に面会に行ったり、ご家族様が近況報告に訪れて下さったりしている。時には気さくに相談事に応じる事などで良好な関係が保たれている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常的に会話や表情の中からお本人様の意向を汲み取るよう心がけ、個々に応じた支援を行えるよう努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時にご本人様、ご家族様から生活歴を聞き取ると共に、入居後もご本人様の言動から情報の把握に努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の気付き、体調の変化等を日誌・申し送りノートに記載し、ユニット会で個々の現状分析をしている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>現場職員だけでなく他職種の意見も参考にし、現状のモニタリングを行っている。固定観念に囚われず、柔軟な発想ができるよう素朴な意見を参考にするなど、より良い介護計画になるよう努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画の進捗状況や、新たな気付きを個人台帳に記載していく事で、職員間で情報共有し、より良い介護計画になるよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者様、ご家族様のニーズ・要望に対し、同法人内施設を利用したり通院支援、買い物代行など柔軟に対応できるよう心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加したり、近所の魚屋に買い物に行ったりと地域資源を活用しながら生活する中で、その人らしく生活していけるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医への定期受診や往診支援を行い、医療面での相談、助言をもらい適切な医療が受けられるよう支援すると共に、ご家族様と情報共有し納得をしていただけるよう努めている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的に個々の疾患等について看護師の指導を受けると共に、症状の変化や気づきがあればその都度看護師に報告し、早期発見と早めの受診ができるよう努めている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には情報提供書を作成し、入居者様の特徴や心身の状態を医療機関に報告すると共に、定期的に見舞いに行き病状の確認や退院後の注意点などの情報を事前に得られるようにしている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時の説明時に看取りの指針を説明し、同意書を頂くようにしている。また、重度化した際は医療面での支援、他の医療サービスが適切と思われる際は、それらを探す手伝いをするなど支援している。</p>			
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人主催の勉強会に職員は参加する事で知識を得ている。また、マニュアルを整備し定期的に見直すなどし、対応力の向上に努めている。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に法人訓練、自事業所訓練を実施しており、全職員が身につけるよう努めている。地域との協力体制については法人訓練の中で役割を持つようにしている。</p>			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>部署会で個別対応を考える際、声掛け方法等も統一できるよう努めている。人格尊重、誇りを守ること等も合わせて話し合っている。</p>			

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の色々な場面で、入居者様が自己決定できるよう声掛け支援をしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎朝、朝の会をしその中で新聞を一緒に読んだり、季節の話題を出したりしながら入居者様の意向を聞き、それらを優先して支援するよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毎朝の更衣時等にご本人の意向を聞いたり、外出の際の洋服選びなどご本人の納得いくまで付き添い、支援している。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>料理本を一緒に見たり季節の食材を取り入れたり、準備の際には入居者様からお手伝いの声が聞けるなど自然と一緒に準備や片づけができる環境ができています。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>料理本を参考に栄養価が偏らないように工夫している。その上で食事摂取量・水分摂取量を記録し体重の増減と照らし合わせ個々に応じた支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケア時はご自身で出来る事は行って頂き、状況に応じて援助している。夜間の義歯洗浄、消毒についても付き添いながら支援している。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々の排泄パターンを記録する事である程度把握し、状況に応じてトイレの声掛け、誘導を行うことにより失禁回数を減らす事に努めている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘による弊害は、勉強会のみならず日常的に職員同士注意喚起しあっている。便秘に対しては食材への気配り、水分摂取に努め出来るだけ自然排便できるよう支援している。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>週に2～3回入浴できるよう調整しているが、その都度入居者様の気分や体調を考慮し柔軟に対応している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活習慣に合わせた就寝の声掛けを行っている。なかなか寝付けない方は、無理強いせず眠気がくるまで対応したりと行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人台帳に常に最新の処方情報を挟み、いつでも確認できるようにしている。服薬変更があれば看護師から助言があり、職員申し送りノートや個人台帳に記載し周知徹底に努めている。経過観察が必要な場合は、細かな事でも個人台帳に記載し、症状の変化に早期対応できるよう努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中に役割を持って頂き、張り合いや喜びを感じて頂けるよう支援している。買い物と一緒にいき、好きな物を購入したり、誕生日会を始め各種イベントを開催したり、ボランティアの歌や演奏を楽しんでもらうなど喜びのある生活となるよう支援している。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様の意向を聞き、可能な限り散歩や短時間のドライブなどに出掛けている。また、ご家族様の協力を得ながら、花見やみかん狩り等にも出かけている。ご家族様の協力を得られれば外食や外泊も行っている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族様の意向に沿ってではあるが、金銭管理をご自身でされている方も居られ、職員との買い物でご自身の物を支払されたりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じて電話を掛けてもらったり、遠方の親族、知人との手紙のやり取りの支援をしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースは台所や食堂の他にリビングがあり、季節に応じた絵画や花を飾り季節感を大切にしている。配光などにも気を配り、居心地の良い空間となるよう心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースは台所と食堂、リビングと別れており、それぞれ自由に移動したり座ったりできるようになっている。気の合う利用者同士でテーブルを囲んだりする姿がよく見られる。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時になるべくご本人の使い慣れた家具を持ち込んで頂けるようお伝えし、居心地の良い空間となるよう努めている。また、日々の生活状況を観察し、必要であれば家具の配置を考え直すなど安全面にも配慮できるよう心掛けている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活空間の中の危険個所に配慮しながら、可能な限り自立した生活を送って頂けるよう支援し、安全に生活して頂けるよう努めている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				